～子供たちの夢をかなえる教師になる！～

東京教師養成塾通信

発行日　令和５年７月26日＜第５号＞
発行元　東京都教職員研修センター
研修部教育開発課
電　話　０３－５８０２－０３１８
ホームページ　https://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.lg.jp/10jidai/yosei/index.html

●第９回教科等指導力養成講座

令和５年６月 17 日（土）東京都教職員研修センターにおいて、第９回教科等指導力養成講座を実施しました。大久保主任指導主事からは、残り二回となった講座を見据え「学級担任になるという自覚をもって取り組んでほしい」との話がありました。

「算数２」

「生活２」

【小学校コースの講座】

○　「算数２」

第５学年 「三角形の面積の求め方を考える」を題材に、子供の考えを関連付けながら「三角形の求積公式」をまとめていく過程について、講師と共に模擬授業を行いました。演習を通して、複数の考えを比較・検討し、共通点や相違点を考えることの重要性について理解を深めました。

○　「生活２」

第１学年「あきとあそぼう」の活動や発問について、他の班の塾生と協議を行い、その後、模擬授業を行いました。児童の気付きの質を高める学習活動の工夫について考えを深めることができました。

「各教科等を合わせた指導２」
「自立と社会参加」

【特別支援学校コースの講座】

○　「各教科等を合わせた指導２」

小学部の児童を想定し、児童の具体的な学習活動を設定し、生活単元学習「宿泊に行こう」の単元計画を考えました。塾生同士の協議を通し、それぞれの教科の特性を踏まえた体験的な学びを設定するための留意点について学びました。

○　「自立と社会参加」

高等部卒業後の進路を見据えたキャリア・パスポートについて学びました。事前に考えた項目例について協議を行う中で、教師と対話を行うことの重要性や、児童・生徒が主体となって作成するための具体的な工夫について理解を深めることができました。

「いじめ・不登校」

【小学校・特別支援学校コース共通の講座】

○　「いじめ・不登校」

一人１台の学習者用端末を用いて、いじめの事例や不登校のきっかけとなる事例を調べました。その後、オンライン上のホワイトボード機能を用いて意見を共有し、学級担任として大切にしたいことについて情報交換を行いました。いじめや不登校を未然に防止するための担任としての支援方法について見通しをもつことができました。

◆塾生の感想から

○　今後、算数の学習では主体性を育むような、問い返しをしていきたいと思った。児童の思考が迷走することなく、最後まで学びたい気持ちを大切にできるようにしたいと思った。

○　生活科の演習では気付きの質の高めるために、多様な方法で表現すること、視覚的な情報整理、他者の気付きを自分への気付きにするという３点で学習指導案を考えることができた。

○　生活単元学習を構想する際には指定校の児童を想定し、鉄道博物館等の行き先を設定することで、現地での学びを想像することができた。食事を提供する際には、アレルギー等、保護者アンケートを活用して、実態把握が大切だと考えた。

○　いじめ、不登校の講座において、児童の小さな変化に気付くことが未然防止の第一歩であることを学んだ。そのため、指定校で先生方の話を聞き、児童の変化の見取り方について学んでいきたいと考えた。

●第10回教科等指導力養成講座

令和５年７月 15 日（土）東京都教職員研修センターにおいて、最終回の教科等指導力養成講座を実施しました。大久保主任指導主事からは、来年度４月の採用を見据え、「節目」を大切にすることについてのお話がありました。

「社会２」

【小学校コースの講座】

○　「社会２」

「問い」を大切にした社会の学習の進め方について学びました。導入場面で資料提示や教師の発問を工夫することで、児童が主体的に問題解決に向かう態度を育むことができることを、演習を通して理解しました。

「特別活動２」

○　「特別活動２」

授業動画を基に、学級活動(2)の授業づくりのポイントについて学びました。ねらいに沿って資料やアンケートを工夫することについて、ワールドカフェ方式でアイデアを出し合いながら児童の「自ら成長する力」を育むための手だてについて検討することができました。

「教材づくり２」

【特別支援学校コースの講座】

○　「教材づくり２」

教材を作成するときに配慮すべきことについて理解を深めました。これまで指定校で活用した教材について情報を共有するとともに、児童の実態を想定して更に効果的な教材の活用方法について議論を交わすことで、教材づくりについて大切なことや配慮すべきことについて学ぶことができました。

「単元の指導計画」

○　「単元の指導計画」

「主体的、対話的で深い学びの視点からの授業改善」と「ICT 機器の活用」の二点を取り入れた単元指導計画の作成時の配慮事項について学びました。児童の実態を細かく想定することで、支援計画を作成する際のポイントについて理解を深めました。

「教職教養」

【両コース共通の講座】

○　「教職教養」

大久保主任指導主事から採用選考で実施する「教職教養」について確認がありました。教育法規や服務、教育課題について見直し、学び続けることの大切さについて実感していました。

「今後の塾生に期待すること」

○　「今後の塾生に期待すること」

渡辺教育開発課長から昨今の国や都の動向を踏まえ、「今後の塾生に期待すること」について講義がありました。特に、子供主体の学びを実現することの大切さに触れ、そのための学習過程の工夫や準備の仕方等について理解を深めました。

◆塾生の感想から

○　問いや学習活動などの設定を事前によく練っておくことで、児童が主体的な活動をすることにつながるということを学び、自分も実践していきたいと思った。
○　社会科や特別活動の授業において児童の視点に立って考えることの重要性を学び、学級や学年に応じた授業の方法や問いを検討することが大切であると感じた。
○　時代や社会は常に変化し続けており、それに合わせて教育の内容も変えていく必要があると大学でも学んだ。何事にもおいても常にアンテナを張り、学び続ける姿勢を大事にしていきたい。
○　教育に関わる仕事に就くに当たって、意識すること、気を付けることが明確になった。教育に関わる人間として、子供たちがよりよく過ごせるように考えていきたい。
○　指定校は違っても、同じような学びをし、同じように成長できていることを嬉しく思った。この班の仲間との出会いを大切にしていきたい。
○　全 10 回の講座を通して、教員としてどう働きたいか具体的なビジョンをもつことができた。